今日のイラスト 271「 イラストでたどる萩往還 1　唐樋札場」　　古谷眞之助

『萩往還とは、江戸時代初期に参勤交代用に整備された街道で、お城のある日本海に面した萩と瀬戸内海に面した三田尻(防府)をほぼ一直線に結び、その全長は約53キロに及ぶ。今なお往時を偲ぶ石畳や一里塚が残り、整備もしっかりされているので春秋には気持ちの良いウォーキングを楽しむことができる。筆者はその萩往還のガイドをして十年近く、これまでのガイド回数も百回を超えた。その経験を基に今回から萩往還の見所をイラストと文章でご紹介したい。萩往還の起点は、実は萩城ではなく、萩の街の中心にあった唐樋札場。ここは萩往還、赤間が関街道、石州街道が交わる交通の要衝で、御触書などが掲げられた高札場でもあった。』

イラストでたどる萩往還 01　唐樋札場

萩城跡
唐樋札場
萩
佐々並
山口
山口
英雲荘
(三田尻御茶屋)
防府

文・イラスト＝古谷眞之助

萩往還とは、江戸時代初期に参勤交代用に整備された街道で、お城のある日本海に面した萩と瀬戸内海に面した三田尻（防府）をほぼ一直線に結び、その全長は約53キロに及ぶ。今なお往時を偲ぶ石畳や一里塚が残り、整備もしっかりされているので春秋には気持ちの良いウォーキングを楽しむことができる。筆者はその萩往還のガイドをして十年近く、これまでのガイド回数も百回を超えた。その経験を基に今回から萩往還の見所をイラストと文章でご紹介した。萩往還の起点は、実は萩城ではなく、萩の街の中心にあった唐樋札場。ここは萩往還、赤間が関街道、石州街道が交わる交通の要衝で、御触書などが掲げられた高札場でもあった。

山口市内に配布されているフリーペーパー「サンデー山口」に 4 月からイラストと記事で萩往還を紹介することになった。毎月第 4 水曜日に掲載され、一応 36 回、つまり 3 年連載の予定となっている。しかし、人気がなければ途中中断もあり得るから、読者の方々には是非応援をお願いしたいところである。萩往還全長 53km の隅々まで知り尽くしていると思っているので、その中から①歴史的に意義ある場所、②萩往還の往時を偲ぶことができる場所、③絵になると思っている場所、という観点で 36 カ所ほどすでに選んで、編集部には候補地を提出している。第一回は萩往還の起点、萩市にある「唐樋札場」である。イラストの周囲はえらく開けている感じだが、もちろん札場は町の中心にあったからそんなことはなく、周囲の現代的な建築物は除外しただけである。それがイラストの良い所で、できるだけ現代風のものは描かないつもり。冒頭字体を変えた解説文をつけているが、これの条件がなかなか厳しい。縦横 10×9cm のほんの小さなコーナーなので、字数は 16 文字×18 行=288 文字でまとめねばならない。長くするのは一向に苦にはならないが、書きたいことは山ほどあるので、短くするのに毎回頭を悩まされそうだ。それで、次回以降はそのイラストにまつわる話を、このページ一杯に書けるだけ書いてうっぷんを晴らすつもりでいる。ただスペースが小さくても逆にメリットもあって、A4 のイラストが 3×5cm に縮小されるので、下手なイラストも実に奇麗に見えるのは有難い。

36 回の連載を無事終えることができれば、手元に 36 枚の萩往還イラストが残るわけで、どこかでまた「萩往還イラスト展」が開催できればと思っている。山口市以外にお住まいの方でサンデー山口が届かない方、またイラスト展を開催しても遠方でご来場が無理な方のために、「今日のイラストシリーズ」で配信していきたいと考えている。3 年という息の長い話になるが、是非よろしくお願いしたい。（2019.5.12 記 ）